

2025 年度入学者選抜 I 期

心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野

解答例

■ I.

- a. リフレーミング b. テストバッテリー c. (研究における) デブリーフィング d. 外れ値
e. ゲートコントロール理論 f. トラウマインフォームドケア g. 特性論 h. スティグマ
i. オペラント条件づけ (道具的条件づけ) j. 不登校 k. エコラリア (反響言語) オウム返しは×
l. 相関係数
m. アドバンス n. 拡張形成 o. 情緒的風土 p. 医療観察
q. ノーマライゼーション r. 触法少年 s. 精神交互作用 t. サイコオンコロジー

■ II.

1. 回答のポイント

関係者からの情報収集、社会的場面における行動観察 (園における行動、大人・子どもとの関わり方)、認知発達のアセスメントに基づき、アセスメントに応じた支援方針・計画の提案 (コンサルテーション) を行う。

2. 回答のポイント

- ①問題の多様性：一つの診断/症状に当てはまる人ばかりではない。複数の診断名、多様な症状、不明瞭な主訴、診断がつかない問題を抱えた人もいる。
- ②個別性：同じ診断/症状でも人には好み・価値観・能力・状況等の個別の要因がある。その人が呈する診断/症状に研究で効果が統計的に支持されていても、必ずしもその人にとって最適で適切な支援になるとは限らない。
- ③従って、効果が検証された特定の方法やアプローチを有力な選択候補として説明しつつ、目の前のクライアントの問題の質をアセスメントしながら、個別性等を考慮した決めつけない姿勢で臨み、話し合いながら本人が主体的に支援を受けることが“エビデンスに基づく支援”である。

3. 回答のポイント

問題点は①時期の主効果が有意でも、効果の方向性（ストレスが上がったのか下がったのか）が示されていないこと、3水準なので多重比較が必要なこと、が挙げられる。対照群がないことは実験計画上の課題。

4.回答のポイント

①前置きとしてそれぞれの医療機関で求められている点は異なる可能性があるため、確認することが必要

②主治医が同一医療機関に存在すること。また、看護師、精神保健福祉士など医療に関わる他の職種も存在することが多いこと。

そのために連携の方法を明確化し、普段から実施できること。特に主治医とはカルテや書類などを通じて指示や心理方針のやり取りを頻繁に行う必要がある。また、他職種とのコミュニケーション能力の向上が必要である。自殺など、緊急を要する場合は他の職種と速やかに連携することも求められる。

③疾患性を有する対象者と面接を行うこと。

そのために、精神障害に関する知識を高めることに加えて、心理検査の結果だけでなく特性、生育歴、家族関係、生活環境などの背景の包括的なアセスメントができることや精神疾患の悪化や再発を防止し、心理面での環境調整を継続して実施する能力も必要である。

■ III.

心理学の学術論文から実験結果・統計データを正しく読み解き、具体的な数値根拠に基づいて仮説の成否を論理的に説明・論述する能力を評価する意図で出題している。

著作物の著作権許諾処理の問題により解答または解答例を公表することはできない。